
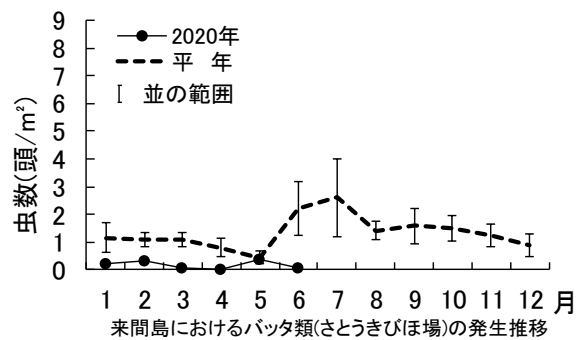
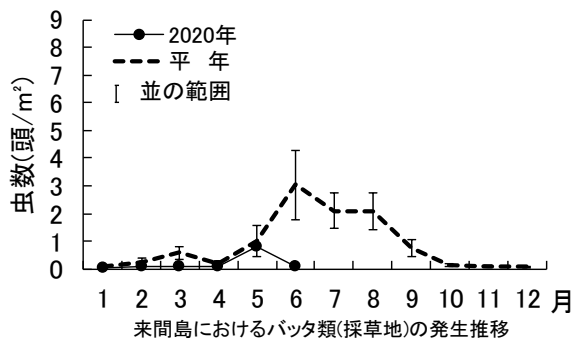


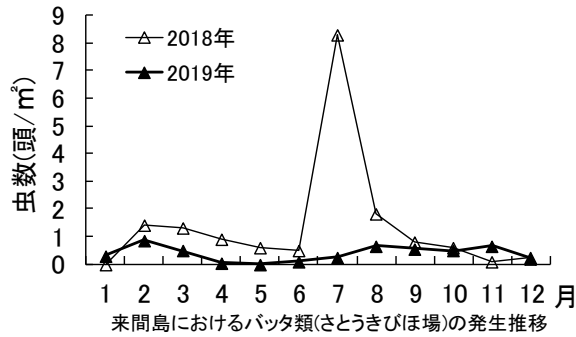
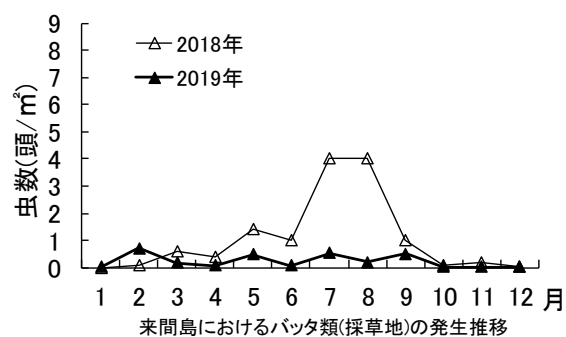
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	やや少	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生種：タイワンツチイナゴ

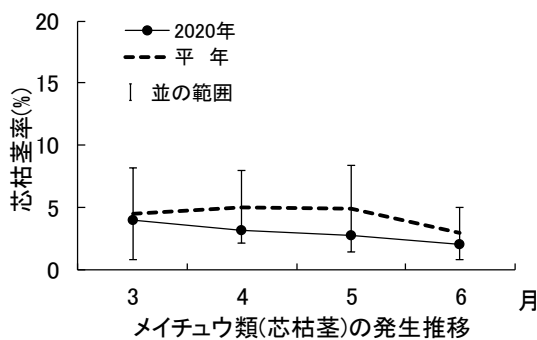
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

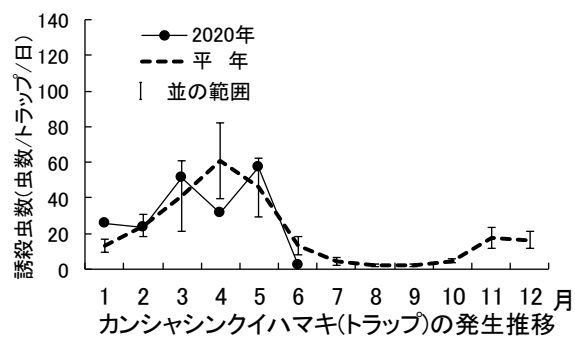
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

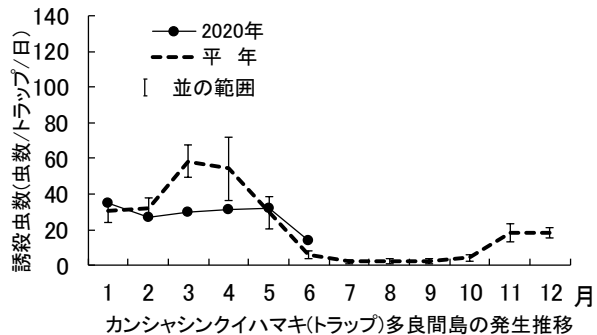
今年と平年の推移



宮古島




多良間島



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：70.0% (平年値：75.8%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、50%(1/2頭) がカンシャシクイハマキであった。

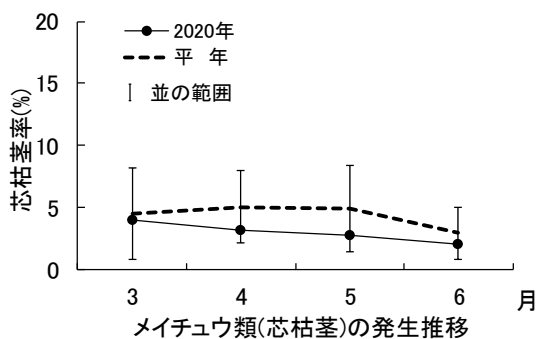
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

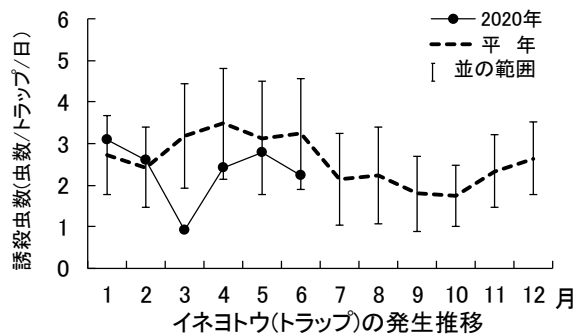
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

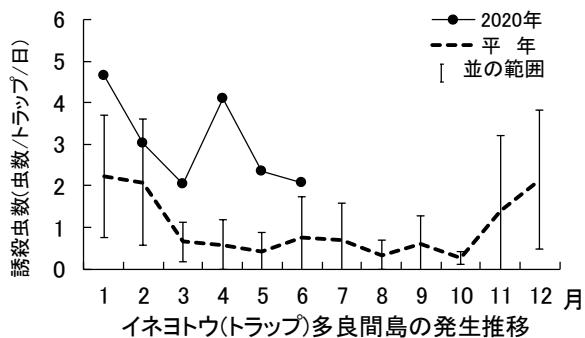
今年と平年の推移



宮古島




多良間島



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：70.0% (平年値：75.8%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、50%(1/2頭) がイネヨトウであった。

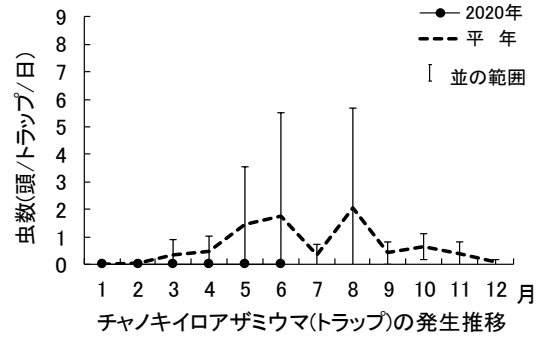
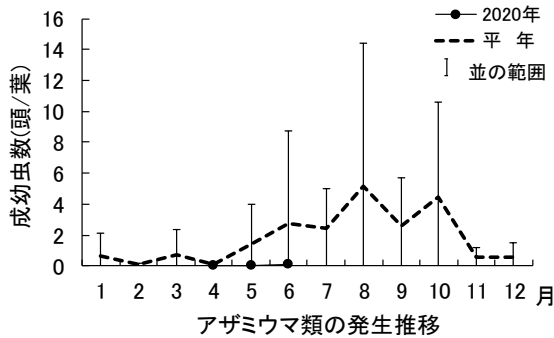
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

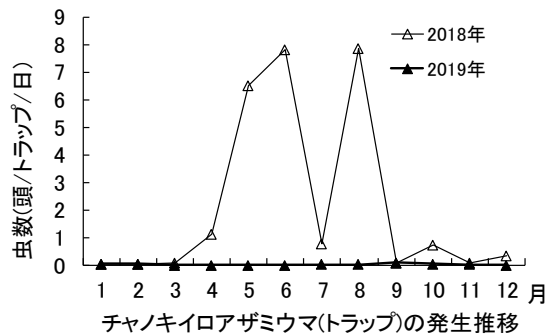
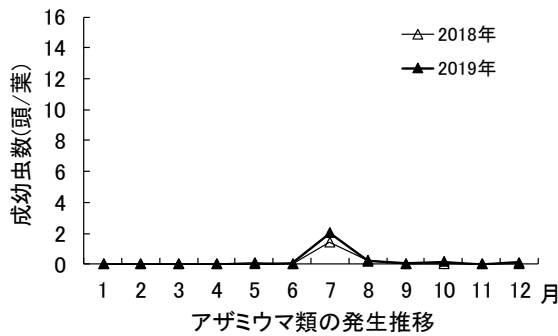
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	新梢の発生量が増加するため	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・関係機関より一部ほ場で多発情報あり
- ・見取り調査による発生施設率：60.0% (平年値：51.2%)

防除のポイント

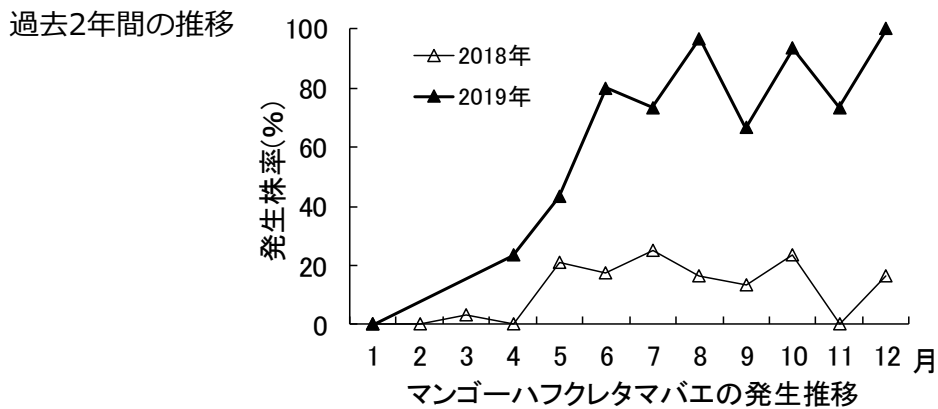
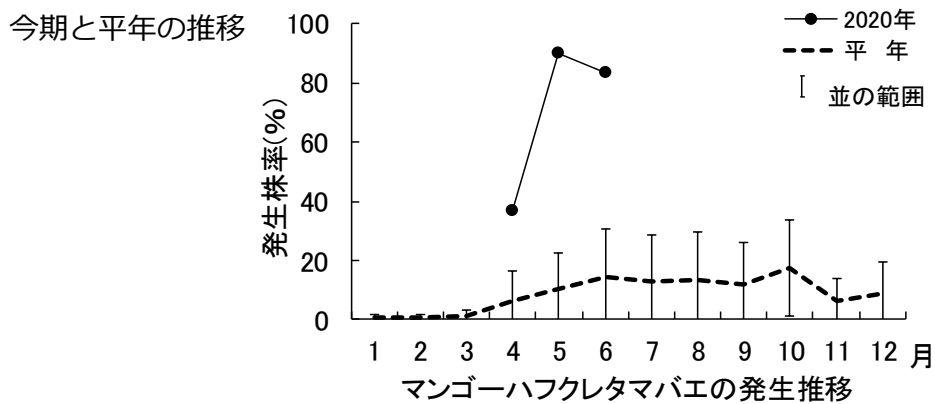
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 多発した施設では、収穫後に薬剤による防除を行う。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→) 新梢の発生量が増加するため	


調査結果



- ・被害新梢率：36.3%
- ・発生施設率：100% (平年値：34.2%)

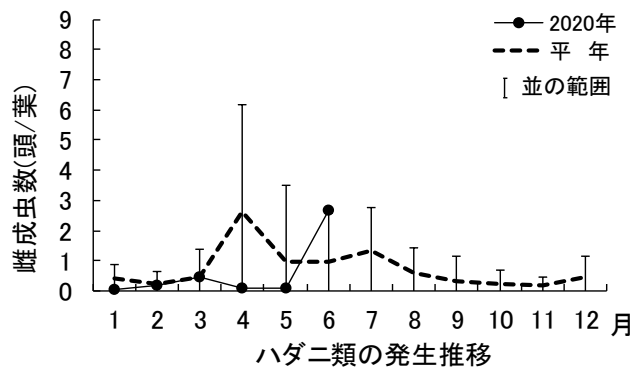
防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

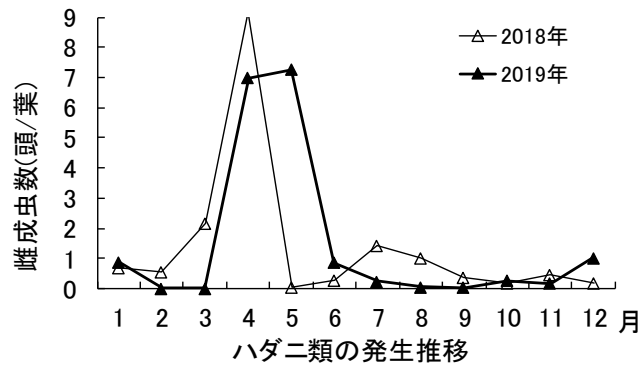
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生ほ場率：10.0% (平年値：29.8%)

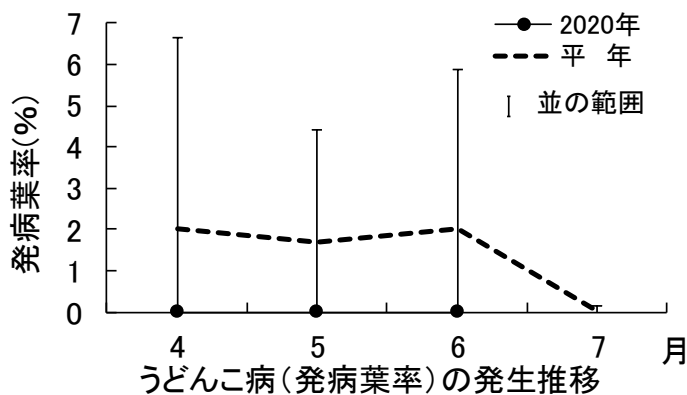
防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

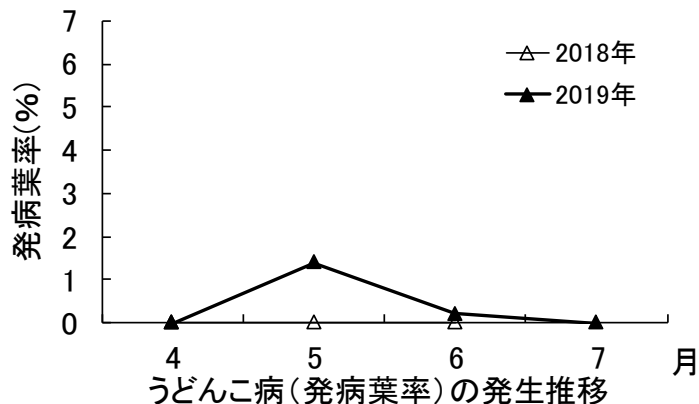
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	収穫期に入り草勢が低下するため	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：0% (平年値：15.2%)

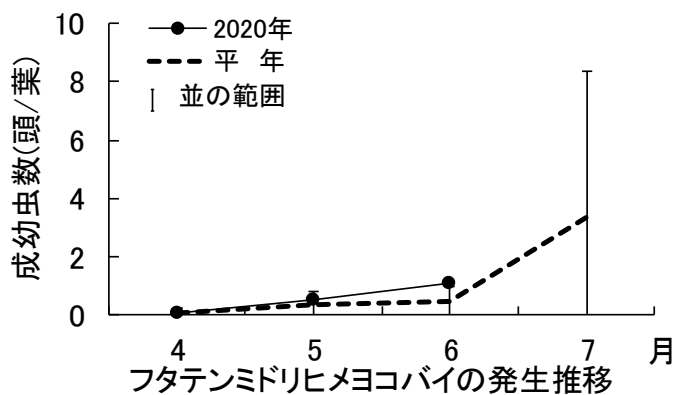
防除のポイント

- ・下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

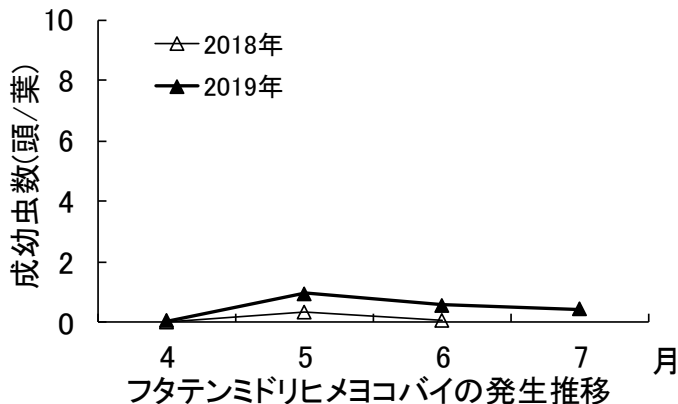
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：100% (平年値：63.6%)

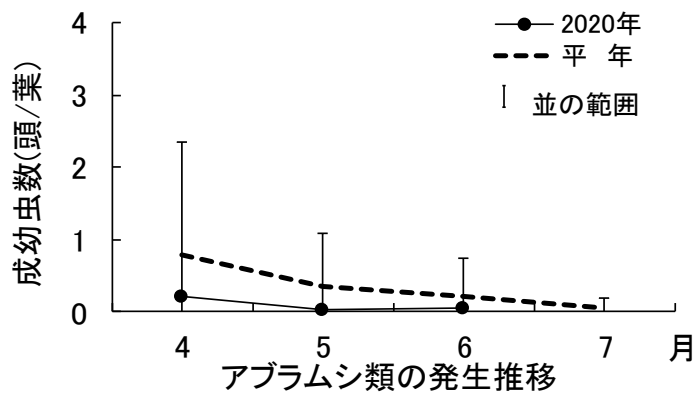
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

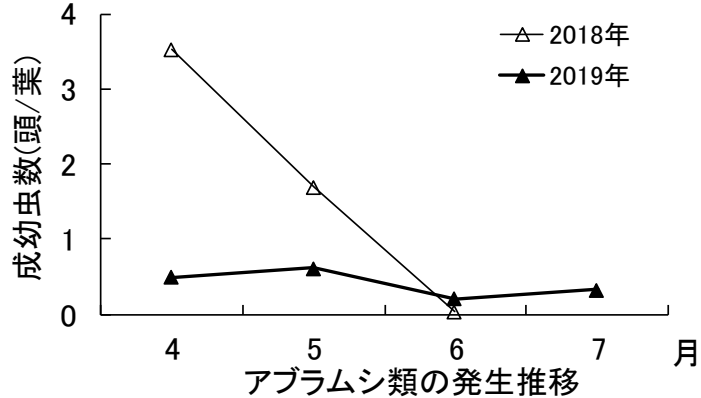
作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率：40% (平年値：24.2%)

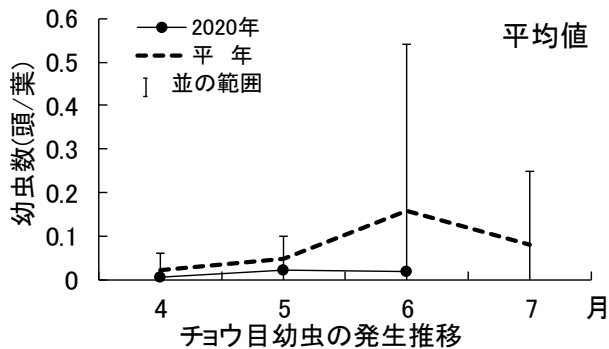
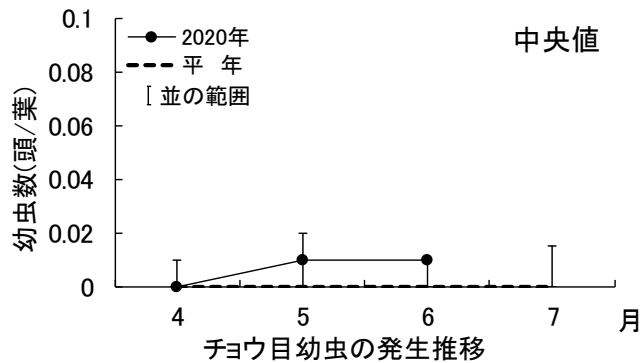
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



- ・発生種：ハスモンヨトウ、台湾キドクガ
- ・発生ほ場率：60% (平年値：36.4%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



台湾キドクガ